

スペイン語講座(Ⅳ) 無人称表現について

今回の号では無人称の表現を扱います。そもそも無人称とは何でしょうか。

既にご存知のようにスペイン語の動詞は原則、6通りに変化します。

例えば、comerだと

現在形でcomo, comes, come, comemos coméis, comen

過去だとcomí, comiste, comió, comimos, comisteis, comieron

と主語をつけなくても6通りの語尾変化から「私」、「君」、「彼」…、がわかってしまいます。

一方、日本語では人称による変化はありません。もともと敬語による言い換えはあるので、一部の動詞では主語が推測されてしまうことがあります。例えば、申しますと言えば「私が」で、「仰いました」と言えば、「目上の人」などと考えられることはあります。

話を戻しまして、基本的には日本語の動詞は主語に関しては「無色」なので、わざわざ主語を言わなければ自動的に無人称の文になります。スペイン語でこの「無色感」を出すにはどうしたらよいのでしょうか。いくつかの方法があります。簡単なものからどうぞ。

Tienes que limpiar la habitación.

(君は部屋を掃除しないとイケない。)

Hay que limpiar la habitación.

(部屋を掃除しないとイケない。)

《Tener que + 不定詞》と《Hay que + 不定詞》は「～する必要がある」と同じ意味です。しかし、前者は活用をしなければならないのに対して、後者は活用がありません。つまり、「誰かが部屋を掃除しないとイケない」と言っている無人称なのです。もともと、他に第三者がいないシチュエーションでこのように言われると、「お前が掃除しろよ」と言われているようでカチンとくるかも知れませんね。

次に簡単なのは英語と同じですが、《3人称複数》を使ったものです。

Dicen que va a nevar esta tarde.

(今日の午後雪が降るそうだ。)

あえてellosなどを入れないで動詞だけにするのがポイントです。もちろん、動詞の活用形からは「彼ら」とか「彼女ら」などの形なのですが、それがわからないので、「一般に」とか「人々は」という意味が感じられるのです。

「一般に人々は～と言っている」→「～そうだ」となります。もうひとつ例文です。

Me han robado la cartera. (私は財布を盗まれた。)

文法的には、「彼らは私に対して財布を盗んだ」なのですが、主語は言っていません。

つまり、「誰かわからない彼らが私に対して財布を盗んだ」

→「私は財布を盗まれた」となります。

この場合の3人称複数「人称臭さを消す手段」ですから、実際には泥

棒が1人だったと思っていなくてもあえて3人称を使うのです。

Llaman a la puerta. (誰かが玄関で呼んでいる。)

ここでも同じことですね。宅配便配達の人通常1人です(特に大型の荷物を除いて)。でも、1人だと思っていなくても「誰かが呼んでいる」時は3人称複数を使います。

次なる手段が、《se + 3人称単数》です。

これは、se受身と似ていて曖昧です。この2つを混同してしまい、よく違いがわからないという質問が多いのですが、実はそれで当たり前なのです。違いは、受身の方は《se + 3人称単数・複数》と動詞の活用が3人称複数でもあり得る点です。例文を見ていきましょう。

En este restaurante se come bien.

(このレストランはおいしい。)

よく初級の教科書で見かける例文です。Se=「人々は」と考えればわかりやすいですね。

「人々はこのレストランで旨く食べる」→「このレストランはおいしい」

目的語をとまうこともあります。

Anoche se conoció a los nuevos ministros del tercer Gobierno de Kan. (昨夜、第3次菅内閣の新閣僚がわかった。)

この例では、seは「人々は」です。se受身ではないのかと思った人はいませんか。残念でした。よく似ていますが、主語が見当たらないので違います。a los nuevos ministrosと目的のaがついているので。もし受身にしたいければ、aを取って主語にし、動詞を主語に合わせて複数にします。se conocieron los nuevos ministros... ただ、お勤めはできません。se conocieron los nuevos ministros...だと「新閣僚たちはお互いに知り合った」という意味にもなってしまい、曖昧だからです。

その次は、《uno》を使ったものです。unoは数字の「1」ですが、ここでは「1人の人」です。ですから女性形unalになることもあります。

Con el paso del tiempo uno se acostumbra a todo.

(時間が経てば人は何にでも慣れるものです。)

ここでは、se無人称は使えません。もともと「慣れる」がacostumbrarseと再帰なので、seを使おうとすると、*se se acostumbra...となってしまいうからです。

また、unoは自分のことを暗示していることがあります。

Uno nunca se aburre contigo.

(君となら誰も退屈しないよ。)

この例では、「誰も」とは言っていますが、本当は「自分は」(Yo no me aburro...)と言いたいのかもかもしれません。テレ隠し?

最後に、《túの無人称》を見ておきましょう。この用法は文脈により判断するしかありません。

- *Nunca he estado en Sevilla, pero eres de ahí, ¿no? ¿Qué tal en verano?*

(セビージャには行ったことないけど、君はそちらの出身だろ?夏はどう?)

- *Pues hace un calor que te mueres.*

(まあ、死にそうなくらい暑いよ。)

Si metes el gol y ganamos, eres un héroe y te aplauden. Pero si fallas, te abuchean.

(ゴールを入れて勝てばヒーロー、大喝采。でもハズせば、ブーイングだぜ。)

túを無人称的に使うと、聞き手を話に引き付けるような効果がありますね。

また、túが暗黙のyoを指していることもよくあります。最後の例はまさにそうですね。話し手はあるサッカー選手でスポーツ雑誌のインタビュアーに向かってしゃべっています。

Si yo meto el gol y ganamos, soy un héroe y me aplauden...と言い換えればわかりやすいでしょう。

スペイン語の無人称表現はまだあります。

でも時間が来たようなので今日はこれくらいで。 ¡Hasta la vista!



仲井邦佳

なかいくによし/Kuniyoshi Nakai

立命館大学産業社会学部教授・スペイン語部会長。

京都イスパニア学研究会会長。専門はスペイン語学。

著書に『コミュニケーションのためのスペイン語』(第三書房), 『中

級スペイン語 一文法と演習』(同学社)などがある。

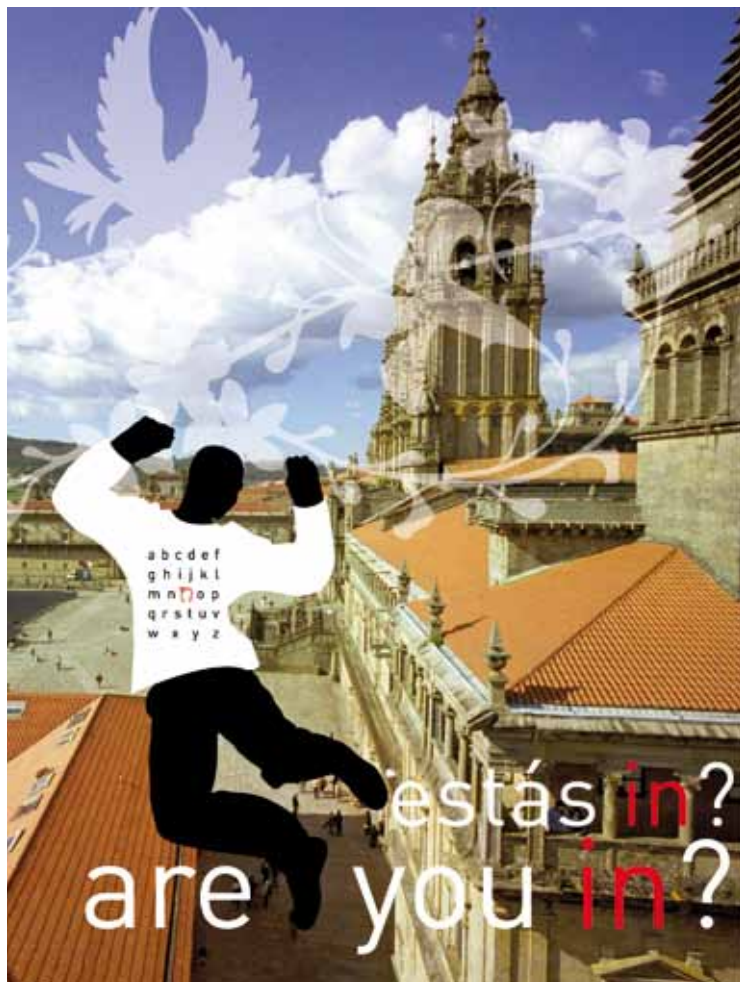


スペイン語学習テキスト
お問合せはアデランテまで。

スペイン
中南米への
留学相談
入学手続き
無料サポート!

06 - 6346 - 5554

www.spainryugaku.jp



楽しくて、住みやすい歴史ある大学都市でスペイン語を勉強してみませんか?

サンティアゴ・デ・コンポステラは、そんなあなたにピッタリの街です。

サンティアゴ・デ・コンポステラ大学は、500年以上の長い歴史を持ち、質の高いスペイン語プログラムで評判の高い教育機関の1つです。

経験豊富な講師陣と多彩なコース内容で、直接スペイン文化に触れながらスペイン語を学ぶまたとない機会に、素晴らしい経験を保証いたします。

学生ひとりひとりのニーズに合ったコースが選べるように様々なコースを提供します。一年を通して学習できるコースの一部は下記のとおりです。

- スペイン語・文化コース
- 個別対応コース：商業スペイン語、スペイン語と健康科学、スペイン語と環境学、食文化とスペイン語、観光とスペイン語、サンティアゴ巡礼コース

さらなる詳細については、インターナショナル・コースのホームページwww.cursosinternacionales.usc.es (日本語) をご覧いただくか、linguas@usc.esまでご連絡ください。

サンティアゴ・デ・コンポステラ大学、インターナショナル・コース事務局
Avda. Das Ciencias, chalet Nº 2. Campus universitario sur
E-15782 Santiago de Compostela. España
www.cursosinternacionales.usc.es . linguas@usc.es
Tel: +34 981 597 035 Fax: +34 981 597 036

